

5つのまちづくり

け止め、自ら考え、行動し、個性豊かで魅力あるまちづくりに取り組む必要があります。

こうした背景をふまえ、多くの方が住みたいと思えるまち、市民の皆さんが住み続けたいと思えるまちづくりを目指して、これからの4年間、5つの『POWER』をもって力強く市政運営を進めてまいります。

① 未来を育む POWER

少子高齢・人口減少社会における自治体の未来を描くためには、子を産み育てる環境の充実や次代を担う子どもたちを、思いやりのある心豊かな人間に育てるまちの風土づくりが大切です。

そのため、周産期を含む妊娠期から子育て期までの各種相談に一貫してサポートする仕組みづくりや、地域の保健・医療・福祉の関係機関と連携し、母子保健施策と子育て支援施策を横断的に推進できる体制づくりを進めます。

また、保育所と幼稚園が一体となった認定こども園の創設や子ども・子育て支援新制度に移行する幼稚園などの保護者などの利用者負担軽減支援を新たに行うなど、幼児期の多感な成長を支える環境づくりや子を産み育てる若年層世代へのサ

ポートを進めるとともに、知・徳・体のバランスのとれた生活が送れるよう、学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもたちを育む環境づくりに努めます。



▲ぬくもりのある環境の中で子どもたちの成長を育む

さらに、若い世代が道徳心にあふれ、思いやりのある市民が集うまちとなるよう、地域が一体となって学び、英知と徳性を養いながら、人財育成が実現できる施策を推進するとともに、この登別市で学び、さまざまな分野で活躍できる若者を育成するため、市内の高等学校や日本工学院北海道専門学校と連携を深めていきます。

また、多くの若者が未来に力強く羽ばたくためには、大きな夢が必要でありますので、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を見据え、若者たちが将来の活躍を夢見て、健康な体と健全な精神を育

むことができるよう、文化・スポーツに親しむ機会を創出していきます。

② 充実した福祉を実践する POWER

高齢化が進み、今後、支援を必要とする方がますます増えていく環境の中、市民一人ひとりが、健康で幸せを実感できる生活を送るためには、福祉社会の充実が必要です。

登別市社会福祉協議会の『登別市地域福祉実践計画（きずな）』と当市の『登別市地域福祉計画』を連動させ、一体となった取組を展開するため、関係団体と連携した地域福祉を推進するとともに、住み慣れた地域の中で医療を受けることができる環境の維持に向け、JCHO^{ジュニコ}登別病院の移転・新築が行われるよう取り組んでいきます。



▲移転について慎重に協議を進めている『JCHO登別病院』

また、支援を必要とする方を地域全体で支えることができる介護予防・日常生活支援総合事業を構築するとともに、全ての世代が健やかに生活できるよう、市民の皆さんとの協働により積極的に取り組む健康づくりを推進します。

日頃から見守りが必要な方については、町内会を基礎とした小地域ネットワークに取り組み登別市社会福祉協議会を引き続き支援するとともに、避難行動要支援者避難支援プランの活用を推進し、平時はもとより有事の際においても、地域の中で互いに支え合い、安心して暮らすことができるよう環境づくりを進めます。

また、障がいのある方が、地域社会で安心して活躍できる環境の充実に努めるとともに、手話を用いた心のバリアフリーを進めるなど、地域が関わるることによって、仲間づくりの機会や働くことができる環境などを増やしていけるよう取り組んでいきます。

さらに、仕事や地域活動などにおいて女性が活躍できる環境づくりを推進するとともに、老人クラブや町内会活動などを通して、高齢者自らが磨いてきた経験などを活かして活躍できる機会を増やすなど、全ての世代が生きがいを感じることでできるまちづくりに取り組んでいきます。